

東京七座会

平成26年春号 (No.11)

五月晴れの空に響く矢車の音が子供たちの声と合唱しているこの頃です。会員の皆様にはお変わりなく、お健やかに暮らしていることと存じます。

平成25年のふるさと会は、第25回東京七座会が6月23日に『ホテルパインヒル上野』で、20名の出席で開催しました。

また、第26回東京鷹巣会は10月27日に九段下『ホテルグランドパレス』で開催され、会員112名と来賓16名の参加があり、会長が菊地靖孝氏(米代会)から成田秀志氏(綴子会)に交代されました。なお、当会からは少数8名の出席でした。

※会員の動向については、以下の退会者により133名(他に下記住所不明7名)の会員数となっております。

退会者	住所不明者		
仲村 力雄(死亡)	小笠原弘美	葦山 栄子(熊谷)	
矢谷 タカ(都合)	佐藤賢四郎	野呂 行雄	
久保 ナミ子(都合)	仲谷 国男	藤田 敏	
渡辺 正泰(帰郷)	成田 寛		《順不同敬称略》
渡辺 正義(死亡)			

亡くなられた方々のご冥福をお祈り致します。(合掌)

住所不明となられてる方々については皆様からの情報をお寄せ下さるようお願いいたします。



【第25回東京七座会】

【第26回東京鷹巣会】

七座のあれこれ

【今泉在住の藤内さんのお話です】

『河童伝説』



浅利家が比内郡(現・大館市、北秋田市、北秋田郡にあたる)を治めていた江戸時代初期のころの話です。河童伝説により、今泉では、今でも語り継がれ、守られている約束事がある。農業が盛んな地域では農作業のために、一家に一頭は馬を飼っていたそうです。

ある日のこと、若勢(わかぜ：農作業や雑事に従事している住み込みの奉公人)が、農作業を終え、いつものように馬を川へ連れ行き、体の泥を洗い流し、水を飲ませているうちに、あたりも薄暗くなり、そろそろ家に戻ろうと馬の綱を引いて川から引き上げようとするが、動かない。カー杯引いても動こうとしない。困った若勢は家に戻り、主人に訳を話し、主人と共に川へ馬を連れ戻しにいき、馬を引きずりながらもようやく納屋まで連れてきた。



河童が現れたという現在の今泉川

馬を納屋へ入れようと主人は綱を引き、若勢は尻を押そうと後ろへ回ると、しっぽに黒いものがくっついているのに気がついた。それは河童でした。主人が河童に仕置きをしようとする、河童は助けてもらおうと必至に謝ったと言う。今泉には大きな沼があり、そこでは、子供が引きずられたり、溺れたりする事故も多く、川でも同様のことが起きていた。これはすべて河童の仕業だろうと思った主人は、河童に「なんで、こんな悪さをするのか」聞くと、「ここには、河童の好物の美味しい胡瓜が有るから、ここに住み、遊んでいる」と言ったそうだ。

その話を聞いた主人は、ここから胡瓜が無くなれば河童が居なくなり、災いも無くなるを考え、河童に「じゃこうしよう、ここでは胡瓜をこの先ずっと植えることはしない」と約束し、河童にも今泉から出て行くことを約束させた。という話が伝説となり、ここで胡瓜を植えてはいけない、植えたら河童が現れ災いが起こると言い伝えられたという。現在でも今泉では、その言い伝えが守られ、胡瓜は植えられていないそうです。今では迷信と言われながらも、何百年と受け継がれ、守られていることが今泉で暮らしている人たちの仲間意識なんでしょう。

今泉にはこのほかに「さちこキツネ伝説」、「たつこキツネ伝説」もあるそうです。